

厚生労働科学研究費補助金（第3次対がん総合戦略研究事業）  
（分担）研究報告書

がんの診療科DBとJapanese National Cancer Database (JNCDB)の構築と運用

研究分担者 寺原 敦朗 東邦大学医療センター大森病院放射線科 教授

研究要旨 診療科DBに入力作業を継続し、問題点を検討しつつ、JASTRO放射線治療症例全国登録のfeasibility study用にデータを抽出、登録した。また、JASTROデータベース委員として基本データベース項目の見直し作業を他の委員と協力して行った。

A. 研究目的

前年度までに放射線治療RISとの連携を構築した診療科DBに、連携を介した入力作業を継続して行いつつ、JASTRO放射線治療症例全国登録のfeasibility studyに参加し、今後の本格登録に備えて、基本データベース項目の見直しを図ることを目的とした。

B. 研究方法

RISとの連携による診療科DBへの入力を継続して行った。そのDBからJASTRO放射線治療症例全国登録のfeasibility study用にデータを抽出し、登録作業を行った。その結果も踏まえ、JASTROデータベース委員会で基本データ項目を見直すための小委員会を立ち上げ、委員長として他の委員や研究者との協力の元、全ての項目の見直し作業を行った。

（倫理面への配慮）

院内におけるデータの連携入力であり、またJASTRO放射線治療症例全国登録項目には個人が特定できる情報は含まれておらず、個人情報保護の点においても問題ない。

C. 研究結果

今回のfeasibility studyでは登録そのものを優先するため、項目については、明確なルールは定めず、データが収集された。当施設のデータも診療科DBから抽出したデータを一定の形式に揃えることなく、そのまま登録した。JASTROデータベース小委員会では、基本データベース項目をその意義や定義、入力時の選択項目など全て検討し直し、必要に応じて新たな項目の追加も行った。今後はデータベース委員会の承認を得て、JASTROによりauthorizeされたデータ項目として運用される予定である。

D. 考察

Feasibility studyの試行により、デ

ータ項目が統一性をもって収集される必要性があらためて確認され、基本データベース項目の見直しに繋がった。今後はこの見直された項目が各ベンダーのRISにも取り入れられることで、効率的なデータ入力、登録が進むことを期待する。

E. 結論

日々のDBへの入力作業、Feasibility studyへの参加と、基本データベース項目の見直しにより、今後の症例全国登録の準備が整ってきた。

F. 研究発表

1. 論文発表

Fujimaki Y., Tsunoda K., Ishimoto S., Okada K., Kinoshita M., Igaki H., Terahara A., Asakage T., Yamasoba T. Non-invasive objective evaluation of radiotherapy-induced dry mouth. *J Oral Pathol Med*, 2014, 43 (2): 97-102.

寺原 敦朗. 【脳腫瘍に対する治療の現状と展望】 悪性グリオーマに対する放射線治療の現状と展望. *癌と化学療法*, 2013, 40 (10): 1278-1282.

2. 学会発表

寺原敦朗, 島田英昭, 谷島聡, 菊池由宣; 食道癌術後局所領域再発に対する放射線治療: 日本食道学会学術集会プログラム・抄録集67回 Page315(2013.06)

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

特記すべきことなし